

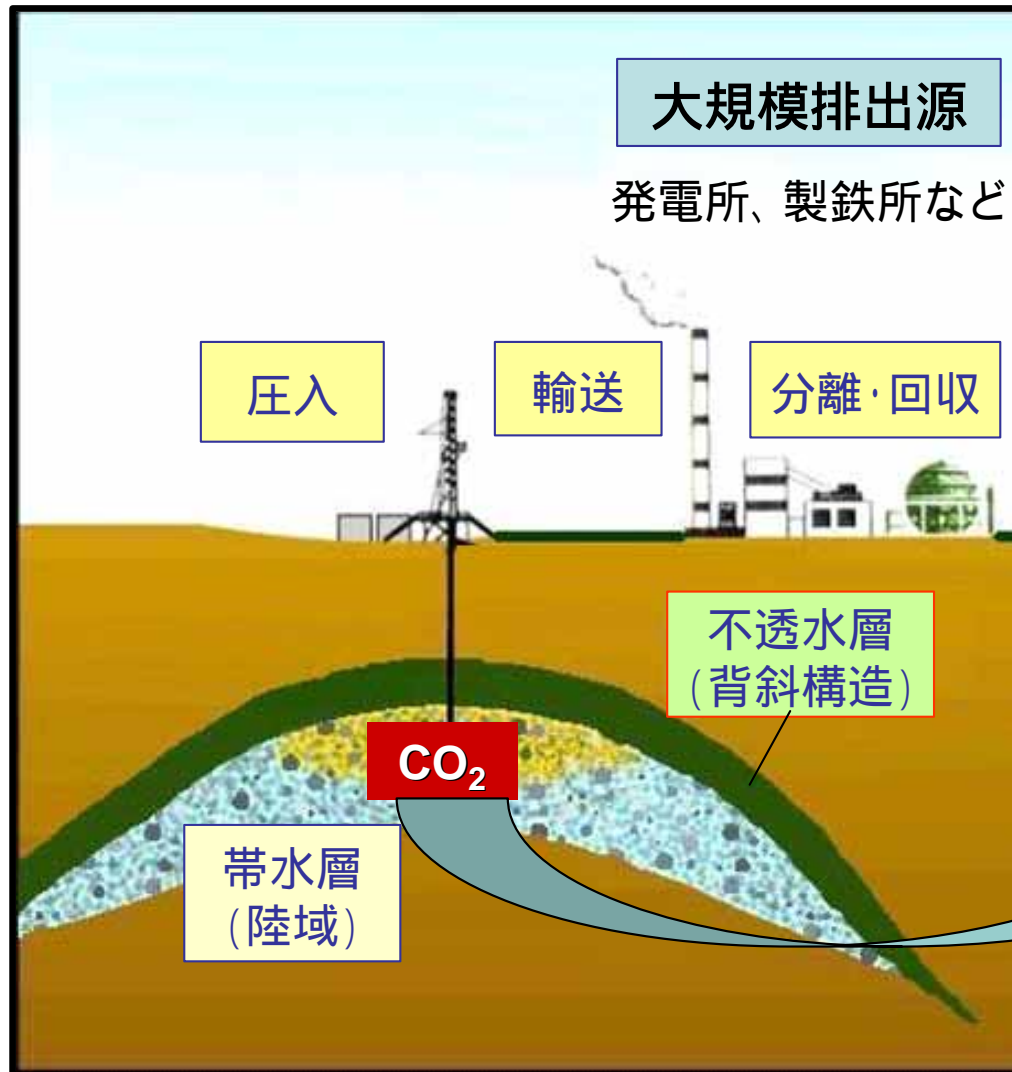
最近の科学技術の動向

平成17年3月29日

(1) CO₂地中貯留

発電所や製鉄所などから排出されるCO₂を長期安定的に貯留

国内の地中貯留可能量: 約35億トンCO₂ (推定)



長岡での帯水層貯留実証試験

帯水層の顕微鏡写真

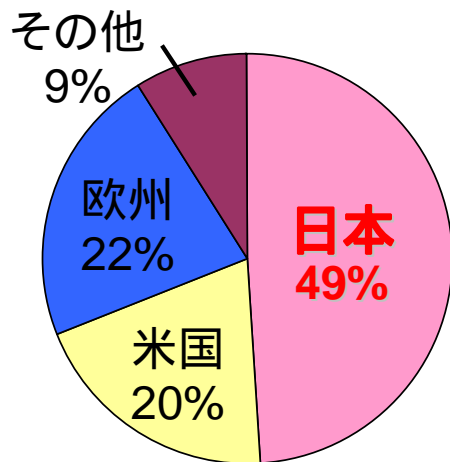


Pore (空隙) 部分にCO₂を貯留

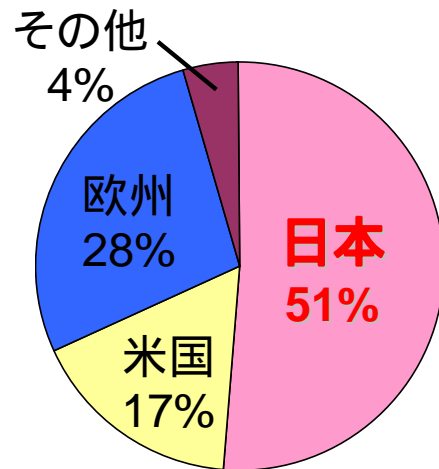
(2) 太陽光発電

- ・生産、設置量ともに世界一(約50%)
- ・温室効果ガスの削減効果: 約40万トンCO₂/年
- ・研究開発と、導入・普及支援策を積極的に展開

生産量(2002年)



設置量(2002年)



出典:平成15年度エネルギーに関する年次報告

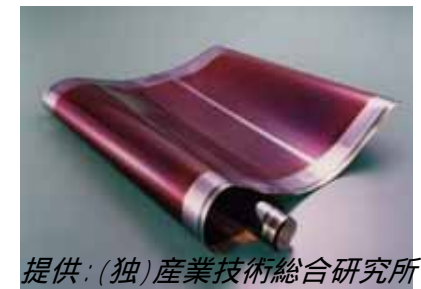
小型低価格太陽電池

- ・交流 / 直流の同時出力
- ・10万円以下で2006年より市販予定



薄膜太陽電池

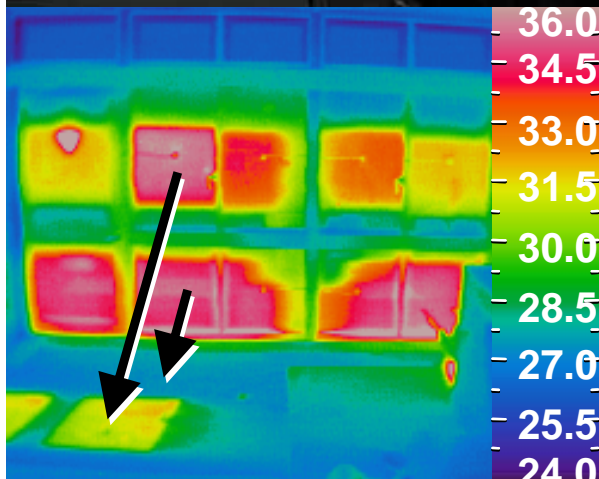
- ・軽量、フレキシブル、多用途
- ・移動式非常電源やサッカー場屋根等へ応用



(3) 調光ガラス

自律応答型調光ガラス

- ・直射日光で透明ガラスが白色に変化
- ・光を80%カット、熱を3分の2遮断



提供: アフィニティー(株)、(独)国立環境研究所



(愛・地球博 瀬戸日本館)



(名古屋大学 野依記念物質科学研究館)



(国立環境研究所 地球温暖化研究棟)